第8回静岡県東部少年の船

七月二十七日から六泊七日、東部四市三町から集まった中学生二百三十七人と、研修生リーダー七人、指導員四十三人は、船で北海道へ。航海体験や洋上研修、北の大地でのさまざまな研修を通して『仲間づくり』に励みました。雄大な自然に触れた夏。初めて出会う仲間とのグループワーク。

伊豆の国市から参加した十四人の研修生と、二人の研修生リーダーは、何を得たのでしょう。帰着式を終えた心境は？

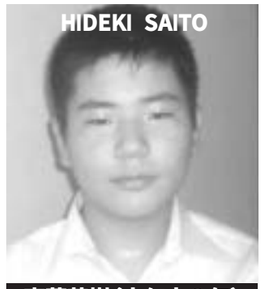
問合せ　社会教育課
電話055(948)1461

【行　程】
1日目：出発式→大洗港出港
2日目：航海教室→苫小牧港下船→大雪青少年交流の家
3日目：ハイキング　**4日目**：旭山動物園　**5日目**：日高ケンタッキーファーム　**6日目**：北海道開拓の村→白老ポロトコタン→苫小牧港乗船
7日目：大洗港下船→帰着式

佐藤樹里（韮山中２年）

事前研修では班長として班員をまとめることができるか不安でした。行きのバスの中で３人友達ができ、名前も完璧に覚えました。北海道では雄大な広さと自然に圧倒されました。北海道開拓の村と白老ポロトコタンで歴史の重さを学びました。

齋藤英樹（大仁中２年）



最初は知らない人ばかりで行くのが不安でした。１番印象に残っているのは、大雪青少年交流の家で夜、グラウンドに寝転がって見た満点の星空です。360度星空が見え、流れ星もたくさん見えました。友達がたくさんでき、行って良かったです。

山口祐貴（長岡中２年）

１週間も親と離れて知らない子ばかりの団体生活、大きな船…。ドキドキとワクワクと少し怖い気持ちでいっぱいでした。日に日に友達が増え、楽しい気持ちが強くなって、帰着式は複雑な気持ちでした。次は研修生リーダーとして参加したい！

山口翔悟（長岡中３年）

班の中で１人３年生で、初めは敬語を使われ堅苦しい感じでしたが、徐々にうち解けました。上下関係なく気軽に話せるということは、より絆が深まるということ。この研修で、間違った上下関係なく気軽に話して絆を深める大切さを学びました。

中島　遼（長岡中２年）

最初はなかなか話せず、友達関係ができませんでした。でもグループワークをやるうちに気軽に話せるようになり、自分から話しかければ絆を深め合えたり協力できることが分かりました。少年の船で自分を成長させることができたと思います。

加藤史朗（長岡中１年）

１番記憶に残っているのは日高ケンタッキーファームでみんなと食べたジンギスカン。肉はうまく焼けたけど、野菜は丸こげだと、班のみんなで笑ったのをよく覚えています。多くの友達をつくることができ、人と協力する大切さを学びました。

佐藤真美（韮山中２年）

「たくさんのことを学べたらいいな」という思いを持ち、北海道へ旅立ちました。１週間で今の僕の中には数え切れないほどの宝物ができました。初めは場の雰囲気に慣れなかったけど、４日目から子どもたちがなじんでくれて、楽しくなりました。

中西愛美（韮山中２年）

研修生を指導することは自分の思うようにいかず、大変でした。今回の研修では人を指導することの難しさを学びました。大変なこともたくさんあったけれど、中学生の笑顔にいつも励まされました。少年の船に参加して良かったです。

池田雄太（研修生リーダー）

この研修を通してたくさんのことを学びました。とくに友達を作る大切さです。今までは同じ学校の人しか友達ができなかったけど、今では他の学校の子とも仲良くすることができました。この研修で学んだことを次に生かしたいです。

池谷麻衣子（研修生リーダー）

自分の成長、みんなの成長を感じました。みんなが同じ時間を過ごしていくうちに、最終日には、男女も班も関係なく、みんなが一つの円になって話していてすごく嬉しかったです。この少年の船で見つけた宝物『仲間』を一生大事にしたい。

飯島　花（韮山中２年）

池田夏那（韮山中２年）

「おかえりなさい」母の声
名嘉眞あゆみさん

中学校の担任の先生の勧めで参加を決めました。出発前は不安そうだった娘が、寄せ書きがいっぱい書かれたＴシャツで帰ってきたときには、満面の笑み。人との出会いで成長を感じます。

名嘉眞ひかり（沼津市立中１年）

１番心に残ったのは仲間の大切さ。出会った頃は仲良くやっていけるのか心配でしたが、『one for all, all for one』を班の目標にした結果、最終日には涙が止まらぬ、別れが辛い素晴らしい仲間になりました。出会いを大切にしたい。

山本美樹（長岡中１年）

私たちの班は、それぞれの個性がぶつかり、気まずい雰囲気のまま３日ぐらい過ごしました。楽しいことも苦しいこともありました。１番自分が成長したのはきっと人に対する気持ちの持ち方と、友と友の絆でした。参加させてくれた家族に感謝。

小㟢津悠平（大仁中３年）

ぼくは養護学級なので、友達ができるか心配でした。でも友達を作ることや普通の人と一緒に生活ができました。初めて１週間家族と離れて生活できたのも、スタッフの人や友達のおかげです。一生思い出に残る体験をさせてくれた両親、ありがとう。

青嶋恵里（韮山中１年）

今までずっと一緒にいた仲間と乗る最後のバス。研修生リーダーからメッセージを送られると、半分以上の人が泣いていました。友達との『深い絆』。手に入れた宝物は『最強の友達』でした。「１度友達になったら、一生の付き合いになるんだよ」。